

松島町地域農業推進協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米の平成30年産米の生産の目安の割合は62.26%で、転作作物に占める大豆、飼料用米の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。また、平成25年産からは備蓄米への取り組みが増加している。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付に転換を推進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少がみられるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中、水稻作付面積の維持が課題となっている。

そのほか、大豆については、排水不良、連作障害等により単収の低下を招いており、是正が必要になっている。

さらに、平成30年度には大規模なほ場整備事業が施行され、主食用米の作付面積が限られるため、目安どおりの転作にはならず、飼料用米、大豆、耕作放棄地などの作付困難なほ場を除き、全面的に主食用米を作付する。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。また、地元ホテル・飲食店のニーズに対応した環境保全米の生産と安定取引の推進を図る。

(2) 非主食用米

平成30年を以って全国一律による生産目標数量の配分は廃止されるが、それ以降も継続して主食用米生産数量を調整していく必要があるため、農業者が取り組みやすい米対応の転作作物である、備蓄米、加工用米、飼料用米の生産維持、拡大を推進していく。

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物の中心作物に位置づける。また、飼料用米の生産拡大にあたっては、産地交付金を活用し、多収品種の導入や直播栽培の推進を図るとともに、農地中間管理事業等を活用し担い手への農地集積を図り、生産性を向上させる。

イ 米粉用米

取組なし

ウ 新市場開拓用米

取組なし

エ WCS用稲

水田の水張り面積の維持や食料自給率向上のために有効な作物として、地域の実需者との調整を取りながら、農地中間管理事業等を活用し担い手への農地集積を図り、生産性を向上させる。

オ 加工用米

主食用米にかわる作目として、産地交付金を活用し、JA出荷を中心に実需者との複数年契約により、安定した生産を図る。

カ 備蓄米

水田の水張り面積の維持・拡大のために有効な作物として安定的に生産できるように、作付面積の維持・確保を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

大豆については、集団化による畑作の基幹作物として取り組まれており、現行の作付面積を維持する。また、産地交付金を活用し、大豆300A技術に取り組み安定生産と品質向上を図り、所得の確保を図る。

飼料作物については、ほとんどが肉用牛繁殖農家の粗飼料として利用されており、自給率向上を図るため、今後も現状を維持する。麦については取組なし。

(4) そば、なたね

そばについては、大豆または新規需要米等の作付が困難な地域において、不作付の増加を防ぐために需要に応じ作付を支援する。なたねについては取組なし。

(5) 高収益作物（野菜等）

白菜、かぼちゃ、ねぎ、玉ねぎの4品目を町の地域振興作物に位置づけ、水田を活用した露地栽培野菜作付けの取組みに対して産地交付金による助成を行い、収益性の高い農業としての土地利用型園芸を推進していく。

(6) 畑地化の推進

取組なし

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	500.2	469.4	526.0
飼料用米	79.7	39.3	80.0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0
WCS 用稲	1.6	1.6	1.6
加工用米	0	0	0
備蓄米	47.4	0.0	40.0
麦	0	0	0
大豆	50.6	50.6	56.0
飼料作物	4.0	4.0	4.0
そば	1.2	0.0	0.0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	40.5	46.8	50.8
野菜	28.2	36.0	40.0
果樹	4.9	4.9	4.9
花き	0.8	0.8	0.8
景観形成作物	1.5	0.0	0.0
地力増進作物	0.0	0.0	0.0
その他	5.1	5.1	5.1

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	現状値	目標値
1	大豆 (基幹作物)	大豆 300A 技術の取組 に対する助成	水田作での大豆 作付面積 単収の向上	(29 年度) 50 ha 108 kg/10a	(32 年度) 56 ha 115 kg/10a
2	飼料用米 (多収) (基幹作物)	飼料用米多収品種導入 助成	多収品種の導入面積	(29 年度) 58 ha	(32 年度) 60 ha
3	飼料用米 (多収) (基幹作物)	飼料用米多収栽培支援	「夢あおば」の導入 面積 収穫量	(29 年度) 58 ha 518 kg/10a	(32 年度) 60 ha 570 kg/10a
4	飼料用米 (一般) (基幹作物)	【県推進枠】飼料用米 (一般品種) の低コス ト生産支援	低コスト技術導入面積 生産費	(29 年度) 21 ha 90 千円/10a	(32 年度) 30 ha 87 千円/10a
5	露地野菜 (基幹作物)	【県推進枠】露地野菜 助成	水田作での露地 野菜作付面積	(29 年度) 2 ha	(32 年度) 10 ha

6	地域振興作物助成 (基幹作物)	地域振興作物助成	水田作での露地 野菜作付面積	(29年度) 3 ha	(32年度) 15 ha
7	飼料用米生産ほ場 の稲わら (基幹作物)	耕畜連携助成(わら利 用)	水田作での 耕畜連携取組面積 飼料用米作付面積 のうち耕畜連携に 取り組む割合	(29年度) 10 ha 12 %	(32年度) 15 ha 16 %

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり